

第1回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日時： 令和2年5月15日(金)16:00～17:00

出席者： 東京都副知事 宮坂学

(敬称略) 住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京瓦斯株式会社

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ

KDDI 株式会社

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

新宿区

東京都

開催方法 Web 会議

議題：

1. 開会の挨拶《東京都 宮坂副知事》
2. 西新宿スマートシティ協議会参加者紹介・設置要綱(案)説明
3. 西新宿スマートシティ協議会の概要説明
4. 先端技術を活用したまちづくりの可能性
5. 西新宿で解決すべき課題仮説の共有・討議
6. 課題検証のための調査設計の共有
7. 広報に関する取組方針(案)の共有
8. 次回の予定・質疑応答
9. 閉会の挨拶《一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会》

1. 開会の挨拶(宮坂副知事)

- 東京都という街をみなさんと一緒にスマートシティに変えていきたいと思っている。21 世紀の新しい技術を使って東京都という街を便利で住みやすく、働いている方と住んでいる方が幸せになれる街にしていきたいと考え、東京都のスマートシティ化を目指し「スマート東京」と名付けた。この「スマート東京」は、3 つの柱からなっている。
 - 1 つ目は、5G や高速の Wi-Fi 等の最先端の通信技術を活用し、平常時・災害時を問わず、つながる街にすること
 - 2 つ目は、街の交通とネットワークを組み合わせた MaaS、ビルとデジタル技術を組み合わせたスマートビルディング等、デジタル技術を活用し既存の街のインフラをアップデートすること
 - 3 つ目は、申請の際に紙やハンコが必要なく、列に並ばなくても済むような東京都の行政サービスをデジタルシフトすること
- 最終的には東京都の区市町村全域で実現できるよう考えているが、東京都は大きく、新宿のような人が多い街から、島嶼部や奥多摩のような自然の豊かな場所まで非常に幅広い地域がある。全てを一気に変えることは現実には出来ないため、いくつかモデル地域を作って先行的に実施することを計画し、「スマート東京」の先行実施エリアとして 5 エリアを設定し、その中でも 1 番最初に力を入れていきたいエリアが西新宿である。
- 一方で、「スマート東京」に関して、昨年 1 月に発表してからコロナという非常に大きな変化が生じている。Before コロナのスマートシティ像とは、自動運転の車が走る、ドローンが空を飛び交う等のイメージだったが、今はそれに加え、コロナ時代に対応したまちづくりを行う必要がある。対面型で問題なかった働き方、飲食店の在り方、交通の在り方が非対面、非接触に代わり、パラダイムが大きく変わっていると感じている。本事業では、西新宿が With/After コロナ時代に対応した街のプロトタイプとなるよう、皆さんと一緒に検討していきたいと考えている。
- 本協議会は、他の市区町村のモデルケースとなるよう、スマート東京の端緒として西新宿のスマートシティ化を推し進めることが目的である。加えて、現状のコロナ時代に対応したまちづくりのプロトタイプとなるよう検討していきたいと考えている。

2. 西新宿スマートシティ協議会設置要綱(案)説明(事務局)

- 設置要綱について説明し決定。

3. 西新宿スマートシティ協議会の概要(東京都)

- 目的
 - 本協議会の目的は、西新宿エリアにおいて、デジタル技術の活用により、「人と人、人と都市」をつなげることで、西新宿に関わる人々の QOL(生活の質)向上に貢献することである。
- 背景
 - 都は、昨年末に発表した、「未来の東京」戦略ビジョンにおいて、デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出す「スマート東京」の実現を掲げている。西新宿は、東京、日本におけるビジネ

ス、商業、観光の中心エリアであり、「スマート東京」の先行実施エリアと位置付けられており、先行実施エリアでは、5Gと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装の早期実現を目指している。

■ 全体像

- 西新宿スマートシティ協議会では、本協議会の下に、プロジェクトチーム(PT)、とタスクフォース(TF)を組成する。PT は、西新宿の課題をアンケートなどにより明らかにし検証していく仮説検証 PT、スタートアップや通信事業者等と連携し、課題解決方法を検討する課題解決 PT、スマートシティに欠かせない都市 OS を検討する都市 OS 検討 PT、また、広報やステークホルダーの巻き込みを検討するタスクフォースから成り立っている。また、本取組は、慶應義塾大学の安宅教授や、東京都フェローの方々など、専門家の意見も踏まえ、複合的な視点をもって進めていきたいと考えている。

■ 組織図

- 協議会の組織体系としては、協議会構成員の皆様との情報共有、取組の方向性を確認する場にしたいたいと考えている。西新宿に関わりが深い協議会参加者や都民に対し、積極的に情報共有を図り、連携して取組を進めていく予定である。

■ 協議会の運営方針(案)

- 協議会は年 4 回の開催を想定している。
- 第 2 回はアンケート調査やインタビュー結果を踏まえ、西新宿における課題の共有をするとともに、その課題から課題解決 PT のテーマを設定し、広報やコミュニティ構築に向けた具体的な方向性について共有する予定である。
- 第 3 回は課題解決 PT や都市 OS 検討 PT に係る取組の中間報告等を行う予定。また、11 月に都が実施する予定の普及啓発体験イベントにおいて、各 PT の取組成果等の発表を予定しているため、その内容確認なども合わせて行う予定である。
- 第 4 回: 年間のまとめとして、検討成果等を確認するとともに、次年度以降の取組について方向性等を確認する予定である。

4. 先端技術×まちづくりの可能性(事務局)

■ スマートシティ実施背景・目的

- スマートシティの背景として、社会課題が顕在化し、複雑化していることが挙げられる。また、近年はデータを取り巻く技術進展が都市運営における重要性を増していることも事実である。
- 一方、スマートシティというと技術が目立つ傾向にあるが、スマートシティの目的は住民の QOL 向上であり、元来まちづくりで追求してきたことと同様である。
- スマートシティ化を通じた QOL 向上の取り組みに関して、世界における東京の立ち位置を見てみると、競合都市に大きな後れを取っている状況といえる。
- ロンドン、シンガポール、ニューヨーク等の競合都市は 5 年以上も前からスマートシティ化を推進している状況である。

- 感染症拡大によるスマートシティへの影響
- コロナの拡大により都市化のデメリットが顕在化しており、都心部に位置する西新宿が果たすべき役割なども検討していくことが必要である。
- With/After コロナで想定される都市の変化
- このような社会変容を前提に、関連するステークホルダーと連携しながら、地域の特徴を活かした With/After コロナの西新宿を実現しなければならないと考えている。
- 職住の今まで以上の一体化による地域経済の見直し、人々の移動方法の変化(時間に縛られない移動等)など、様々な社会の変容は必須である。

5. 西新宿で解決すべき課題仮説(事務局)

- スマートシティにおける検討領域
- 今回、課題を整理するにあたり、経済・移動・環境・エネルギー、防犯・防災、生活・健康、行政・教育の 6 領域を設定し、上位計画等を基に主要課題を整理し、西新宿エリアのまちづくりで検討していくべきテーマとして「働く」、「暮らす」、「遊ぶ」の 3 つに「ブランディング」の観点を加え、計 4 つのテーマを設定した。
- 西新宿エリアの課題を踏まえた PT テーマ(案)
- 西新宿はオフィスワーカーが非常に多く、いかに働く環境をレベルアップさせ、同時に安心して過ごせる街を確立していくかが重要なテーマである。
- 解決策を短期・中長期の時間軸、ハード・ソフトの観点から検討し、テクノロジーに求められる役割なども明らかにする。昨今のコロナ事情や専門家の意見等を踏まえ、アンケートを実施し、最終的な西新宿で解決すべき課題を把握していく予定でいる。
- 西新宿の課題に関する討議
- 会社や肩書などは一旦お忘れいただき、西新宿で生活する一個人として自由にご発言いただきたい。

(発言者 A)

- 西新宿エリアは 30~40 メートルと広い道路幅員、広大な公開空地と既存ストックとしてオープンスペースが存在しており、賑わい、回遊性、防災力の向上の場として有効活用をする必要がある。
- 一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会や東京都、新宿区、地元の商店街や町会等とまちづくりに係る合意形成を図る必要がある。
- 西新宿に関わる多様なステークホルダーを巻き込むために、取り組みの見える化のアクションが重要である。
- オープンスペース等の西新宿にある既存ストックの有効活用とそのための各種規制緩和が重要である。

(発言者 B)

- 西新宿の重要なステークホルダーである町会や商店街等の意見も聞きながら議論を進めてほしい。
- 新宿駅は東口と西口が一体不可分なエリアとなっている。西新宿だけではなく、東西のバランスを考慮して議論していきたい。
- 新宿駅周辺は帰宅困難者対策が課題となっている。災害対策についても議論していきたい。

(発言者 C)

- 西新宿で職場以外の人と出会う機会がない。これを機会に興味・関心が近い街に住んでいる人として、西新宿の人たちとつながる機会が欲しいと考えている。
- 今回の協議会はそのようなつながりを作る貴重な機会であると感じており、エリア内でキッチンカーと一緒に囲むといったような新しいライフスタイルが構築されればよいと感じている。

(発言者 D)

- コロナの下で、ニューノーマルな「働く」、「暮らす」、「遊ぶ」を構築する必要があると感じている。ニューノーマルな文化を、西新宿を最初として新宿駅の東側も含めて広めていただきたい。
- 西新宿は完成された街であると感じている。現在のようなオフィスビル内で完結してしまう状況無くし、西新宿エリアでの交流機会を創出することが必要である。他方、コロナの状況を考慮し、混雑状況に関する情報発信を通じた安全な環境の提供も重要であると思われる。
- 西新宿内のイベント開催状況やデモスペースの利用等のあらゆる情報を発信していただきたい。
- コロナの影響を踏まえ、本事業を通じて西新宿から「ニューノーマル」な文化を発信していく方がよいと考えている。

(発言者 E)

- After コロナにおいても「楽しみ」は人々に求められる要素のため、混雑状況を意識した「新たな楽しみ」を検討・提供し QOL 向上を図ることが重要であると考えている。
- 例えば運動や通勤、ランチタイム等のオフィスワーカーのライフスタイルを変える施策を提供する必要があると考えている。

(発言者 F)

- コロナが社会・生活様式を変えていくと感じており、コロナの状況を考慮し、混雑状況の見える化を通じた楽しみの提供が必要と思われる。
- 自粛や街の混雑状況を考慮しながら、長期的に現在の環境とは付き合っていく必要があるのではないかと考えている。
- そのためには、効率的な情報発信に向け、スマートシティの基礎である都市 OS の構築が必要

であると考えている。

(発言者 G)

- 第 1 波のコロナのピークが落ち着きつつあるが、今後コロナ感染の第 2 派や現在ほど大きくなくても第 3 波が起きてくる可能性を考えると、通常時と自粛時双方で汎用性のある機能を備えたサービスを提供していくことが重要であると考えている。

6. 課題検証のための調査設計(事務局)

■ 課題調査の概要

- 討議内容は、アンケートやインタビュー調査等によって検証し、検討を深めていく予定であり、年度末には本事業の効果検証もアンケートを通じて行いたいと考えている。
 - 今回の課題調査は大きく 3 つを実施する予定している。
 - ①このエリアの課題検証のために行うもの(6~7 月頃)
 - ②本事業の取組成果を図るために行うもの(1~2 月頃)
 - ③11 月に実施する普及啓発体験イベントでの成果を図るために実施するもの
 - 設計内容や結果の分析等については次週以降に開始する仮説検証 PT において細かく議論をさせていただく予定でいる。
 - 本アンケートは、西新宿のオフィスワーカーを対象として想定し、環境改善委員会や東京都庁の皆様にも社職員へのアンケート依頼などでご協力をいただきたい。
- ### ■ アンケートを通じたコミュニティ形成方針(案)
- 本年度の取組の成果を図るため、6 月に実施予定のアンケートを通じて西新宿のコミュニティを形成し、年間を通じてコミュニケーションを図る予定でいる。
 - 今年度は事業の進捗状況の報告や参加者からアイデアを募るといった簡単なコミュニケーションを考えており、今回をきっかけに都民個人単位を巻き込んだまちづくりコミュニティの形成を図っていく。

7. 広報に関する取組方針案(事務局)

- 広報活動の取組方針は、広報・巻き込み TF 内で具体的に検討していく予定だが、情報発信の対象となるターゲットを都民・企業・自治体等に分けて、それぞれの情報発信の目的に応じて効果的な情報発信を行い、年間の広報活動を通じて西新宿のまちづくりに対する興味・関心の向上やまちづくりへの参画促進を目指す予定でいる。

8. 次回予定案内・質疑応答(事務局)

- 次回は 7 月 20 日週の実施を予定しており、第 2 回は仮説検証 PT でのアンケート・インタビュー調査後に開催し、課題解決の方向性の共有や課題解決 PT でのテーマ決定などを行う予定でいる。

- 次回協議会までの依頼事項としては、アンケート調査へのご協力と PT 等へ参画いただきたいと考えている。

9. 閉会の挨拶(一般社団法人環境改善委員会)

- 西新宿の目標は、西新宿に関わる人々の QOL 向上を図り、新しいビジネス・文化を生み出すことで西新宿らしい人々の活動を創ることにある。
- 今まではフィジカルな空間づくりに注力していたが、今後はそれだけではなく、サービス・ソフトも活用し QOL 向上と人の活動を創る必要があると考えている。
- 加えて、コロナ時代において、どのようなサービスが求められるのか、にぎわい創出に向けて、どのようににぎわいが今後求められていくか考える必要があると考えている。
- まちづくりと「働く」、「暮らす」、「遊ぶ」のような人の活動を、先端技術を活用し実現することが効果的であると考えている。
- 環境改善委員会は高層ビルに入居するような構成員 18 社から成り立っているが、今回の事業では人材の提供を通じたアンケートの協力やイベントへの参加などを通じて、皆でまちづくりに関与し、西新宿ならではの「スマート東京」を作る過程として、今後の協議会に対しても協力していきたい。

以 上